

琉球大学学術リポジトリ

三絃説之由来

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2021-09-08 キーワード (Ja): 所収コレクション : 琉球大学附属図書館宮良殿内文庫, 宮良殿内 (みやらどうんち) キーワード (En): In Collection: The Miyara-Douchi Collection (University of the Ryukyus Library) 作成者: -, 2021/9/8 16:09 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/49034

之陰説く由來

史之陰源を云ふは神也天地人々わらむ
なりむし黃帝の神也始也と乃國ハ
天子わらむと下は陰が方ハ地ハのり
こり乃陰ハ人々此つとるなり大陰を君を以
神陰ハ陰と正小陰ハ民とを男陰者濁り
多し淨者少しと此史と人々君とわらむとハ
少しとありと君家ととわらむとハ

君此所德也中德は前如谷川ノ
君試いありしと民は友訓して善端
而乃之く而徳執りて汝汝臣士其職
女法は音治一きくはてわら法と徳也
之不汝は利未在りて善事一善者
之と民百姓は道なり是故おん
人も法と之のときたれ中と一
陰陽の光おと成化生一右乃より一

心學一人毎人生變て法は徳也
天地の理は且天地おんことわ九百九
天道と人事ときわらわることの
官の音お徳と一のとき一
我二教わみん一と一
何ともし一
天地の徳と一
徳地の横と一

中ノ若盟ニ湖ノ水もとちり 尤亦海
ありといふと何處ノ聖ノ地也此種
事も初めしか 一説してゆかふとふと
只己が心と沈靜して吾性持て喜ひ
お申の御宗と拂ひ妖怪と消けし
ありてさし 憂慮せむは
心形一氣に成相あるが故と治の國と
天下と平かなるの故也又

此を以て先皇後君政事
安徳の治也又中信を信士と
平已の徳也又村部と建
ひとひ女信の國百姓は
疲乏して村制をひき
この信共は善の信利の
水谷於て身と沈むる
破れ是く色いかに

附
予
の
沈
と
端
の
一
篇
く
知
夫
と
心
奇
と
知
ふ
の
又
信
と
心
此
と
心
流
と
心
一
篇
く
知
夫
と
心

性情書

琴

歌謡章
沈静篤實可歌謡
浮躁淺露彈者

己
の
志
を
漢
と
心
一
篇
く
知
夫
と
心
一
篇
く
知
夫
と
心
一
篇
く
知
夫
と
心

元治十一年乙酉正月五日泊村外方観

下
稿
く
知
夫
と
心

用
紙
之
反

松
紙
之
反

高
宗

